

平成29年度予算のあらまし

平成29年度那珂川町一般会計予算は、8,150,000千円となり、前年度予算に対し、1,830,000千円減（18.3%減）となった。これは、庁舎整備事業や認定こども園整備事業の完了のほか、松野・富山地区の農道整備事業、馬頭中学校の太陽光発電設備や周辺環境整備工事の完了などが、減額の主な要因となっている。

特別会計は、介護保険特別会計で、介護サービス利用者の減により給付費が大幅に減額となった。また、簡易水道事業特別会計が水道事業会計に統合したため、7会計から6会計に減となり、その他の、ケーブルテレビ事業特別会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計の予算総額は、5,388,000千円となり、前年度予算に対し、308,000千円の減（5.4%減）となった。

ケーブルテレビ事業特別会計予算は、475,000千円で、施設管理運営費は増額したものの、公債費が減したことにより、前年度予算に対し、3,000千円の減（0.6%減）となった。

国民健康保険特別会計予算は、2,540,000千円で、保険財政共同安定化事業の増により、前年度予算に対し、20,000千円の増（0.8%増）となった。

後期高齢者医療特別会計予算は、191,000千円で、後期高齢者医療広域連合への納付金の減により、前年度予算に対し、10,000千円の減（5.0%減）となった。

介護保険特別会計予算は、1,830,000千円で、介護サービス給付費の減により、前年度予算に対し、64,000千円の減（3.4%減）となった。

下水道事業特別会計予算は、304,000千円で、施設管理費の減により、前年度予算に対し、12,000千円の減（3.8%減）となった。

農業集落排水事業特別会計予算は、48,000千円で、維持管理費の減により、前年度予算に対し、1,000千円の減（2.0%減）となった。

簡易水道事業特別会計予算は、水道事業会計への統合により、皆減となった。

水道事業会計予算は、簡易水道事業特別会計を統合したため、714,460千円と大幅に増額し、前年度予算に対し、244,190千円の増（51.9%増）となった。

これにより、一般会計及び各特別会計並びに水道事業会計の予算総額は、14,252,460千円となり、前年度予算と比較して、1,893,810千円の減（11.7%減）となった。

一般会計における歳入の財源内訳、歳出の性質別内訳は、次のとおりとなった。

●歳入内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
自 主 財 源	3,039,941千円	37.3%	16.2%減
依 存 財 源	5,110,059千円	62.7%	19.5%減

●歳出内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
投 資 的 経 費	718,628千円	8.8%	72.4%減
消 費 的 経 費	5,066,511千円	62.2%	1.2%増
その他の経費	2,364,861千円	29.0%	0.2%減

歳入の構造は、自主財源において、町税のうち固定資産税、法人税や、分担金及び負担金は増額したものの、個人町税や使用料及び手数料等は減額となり、3,039,941千円（対前年度比588,318千円減、16.2%減）を計上した。自主財源の確保については、町税において引き続きより一層の課税客体の的確な把握に努めることとした。依存財源については、地方消費税交付金のほか、県支出金において畜産担い手育成総合整備事業費や、農業基盤整備促進事業費が大幅に減額となった。普通交付税は合併特例期間の10年を経過し、段階的縮減が実施されているところであり、一本算定と同等額を計上する。町債は、町道76号線改良舗装事業や、消防ポンプ車購入費などを計上したが、将来の財政負担に支障がないように過疎対策事業債や合併特例事業債などの有利な起債を活用することとした。また、財源補てんに充当する臨時財政対策債については、国の平成29年度概算要求を踏まえて、前年同額の300,000千円を計上した。この結果、依存財源は、5,110,059千円（対前年度比1,241,682千円減、19.5%減）となった。

歳出については、庁舎整備事業や認定こども園整備事業などの、大規模工事完了により、対前年度比1,830,000千円減、18.3%減と、予算規模は大幅に減額するものの、「第2次那珂川町総合振興計画」に基づき「那珂川町人口ビジョン」及び、「那珂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた地方創生に向けた取り組みなどに重点を置き予算措置した。